

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和3年度吉城高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和4年2月4日(金) 16:00～17:00
- 3 開催場所 飛騨市文化交流センター(リハーサル室)
- 4 参加者

会長	柴田 駿一	吉城高校同窓会長
副会長	沖畑 康子	飛騨市教育委員会教育長
委員	都竹 淳也	飛騨市長
	川上 佳洋	宇宙まるごと創生塾飛騨アカデミー理事長
	渡邊 正憲	(株)飛騨ダイカスト代表取締役
	岩原 明生	飛騨古川青年会議所理事長
	船坂 志乃	吉城高校育友会女性部長
オブザーバー	布俣 正也	岐阜県議会議員
学校側	日江井 孝浩	校長
	中田 和美	教頭
	大乗坊 健	事務長
	小澤 耕	進路指導主事
	桐谷 直嗣	特別活動部長
	鈴木 泰輔	キャリア推進部長
	関口 祐太	進路支援(株)Edo代表取締役

5 会議の概要(協議事項)

*この会議の前に「YCK(吉高地域キラメキ)プロジェクト報告会」実施

(1) 会長挨拶

(2) 「スクール・ポリシー」策定

⇒第2回学校運営協議会で示した内容から委員の方の意見等を踏まえ、アドミッション・ポリシーの3つ目の項目「理数科では探究心が・・・」の「理数科」を削除した。

意見1: グラデュエーション・ポリシーはすばらしい。ルーブリック等を活用し、その成果等を生徒が実感できるとよい。カリキュラム・ポリシーの1行目は目標・目的でありグラデュエーション・ポリシー(GP)ではないか。1行目を達成するためにどのような取組をするのか記述した方がよい。例えば、1行目の目的を達成するためにルーブリック等を活用す

る等、もう少し具体的に表現してはどうか。本校として何を大切にしてくかを記述するべきではないか。

意見2：最後が「実施」で終わるように文章を変えれば、手段方法を記述する文面となるのではないか。

⇒再度検討し、改めて委員の方に示して書面評決としたい。

(3) 「生徒心得」の改定について

⇒校則を見直す際の手順を分かりやすく生徒に示す必要がある。校則を見直す手順として学校運営協議会での協議を経るようにしたい。

意見1：学校運営協議会で話し合ったことを基に生徒に戻す可能性もあるのか。

⇒その可能性もある。生徒の意見を尊重しつつ、地域の意見も踏まえて決めたい。

意見2：本協議会のように第三者委員会を設置した方がよいと思うが、県立学校間の共通理解があった方がよいのではないか。

⇒校則も含めて学校の特色があってよいという方針である。学校間で統一する必要はない。本校が学校運営協議会での協議を加えるのは、地域の意見を広く聞くという意図である。

意見3：校則は高校ごとで違ってよい。地域や生徒、学校が議論するというプロセスはよいことである。学校が守ろうとしているものや、大切にしようとしているものを生徒と議論し、生徒たち自身が理解していくことが重要である。

(4) 質疑応答及び「YCK（吉高地域キラメキ）プロジェクト報告会」

意見1：探究する姿勢がとても参考になった。報告会の発表に感動した。探究課題の背後の複雑性に着目することができればさらにより活動ができる。

意見2：報告会の最後に話してくれた3年生の生徒の話を来年度の1年生に聞かせてあげたい。昨年の活動は、自分たちで考えただけで終わっていたが、今回は、次の行動が生まれてきていることがよかった。調査の質に関しては改善することでもっとよくなる。YCKは分かるが総合的な探究の時間とESDの違いは何か？

⇒ESDと総合は授業だがESDは生徒が自発的に行う活動であり、総合は探究活動の手法を学ぶ時間として位置付けている。

意見3：YCKについては深まりを感じ、密度が濃くなっているが、フレームワークの身に付けさせ方は、もう少し工夫した方がよい。市役所での実践が本校での教育活動に役立つことが出来るので相談をしてもらえれば協力することが出来る。また、ESDでは生徒自身が考えた解決策を提案するだけでなく、実際に自分たちが被験者となりためてみると、さらによくなる。

意見4：このような生徒の発表の場があることは大切である。昨年の活動に比べ中身が深まっている。発表のための発表になることを懸念していたが、今回は内容に深まりがありとてもよかった。自分たちで何とか解決しようとする姿勢がとてもよかった。地域の方にこの発表を見てほしい。高校生が飛驒のことをここまで考えていることを地域の大人に伝えたい。⇒発表の様子はYouTubeで配信する予定である。

意見5：大人でもここまでの発表はなかなかできない。高校に入って1年でここまで発表できるこ

とはすばらしい。「なぜ」の問いを繰り返すことで、課題や問題の本質が見えてくる。「なぜ」の問いを大切にしてほしい。

意見6：諸問題の背景をしっかりとらえることが出来なければ実施したところで成果は得られない。自分たちの時代と比べると今の子供は、どうなりたいのかという未来について考えていることがすばらしい。

意見7：大勢の前で話をできることはすごい。YCKの課外活動プログラムの申し込みが早い段階で締め切られてしまう。申し込みの締め切りはそれぞれの活動の前にしてもらえると生徒が考えて申し込むことができる。中学生が進路選択をする前に見せてあげるとよい。
⇒ 参加は締め切り後でもいつでも受け付けている。参加をあきらめる生徒がでないようPRをしっかりとしたい。
⇒ 高・特フェアがあれば今回の報告会を紹介しようとしていたがコロナ感染症の影響で中止となった。

意見8：報告会をリアルで見られてよかった。進路支援をした3年生の生徒が大学合格後、どんな思いでいたのか聞いてよかった。子供たちが考えるために教員の問いの持たせ方が重要となる。生徒がやりたいことを基に地域がどのようにかかわれるかなど、学校運営協議会で議論できるようになれば学校運営協議会自体がもっと発展するのではないかな。

意見9：対面で人と話す力を付けるのにYCK報告会は適している。

(5) 閉会

副会長：「飛騨市学園構想」に入れてもらえればなんでもできる。地域に対して声をかけて地域の人をもっと巻き込んでほしい。どんどん協力していきたい。

6 会議のまとめ

本校の取組について様々な角度から意見を得るとともに、現在の状況に高い評価が得られた。今後も学校運営の指針としたい。